

科 目	倫理	普通科後期
名		2年・2単位
目 標	青年期における自己形成の課題についての理解と思索を深め、人間としてのあり方、生き方について考える。 先哲の思想を学ぶことを通して、現代における諸課題を自己の生き方や社会との関わりの中で主体的に考えることができる。	
位 置	倫理を高校で初めて学ぶ生徒のために開講する。	
づ け		

■使用する教材

- ・教科書 高等学校新倫理（清水書院）
- ・問題集 完全 MASTER 倫理問題集（清水書院）
- ・参考書 テオーリア最新倫理資料集（第一学習社）
- ・過去の模擬試験問題
- ・自作プリント ほか

■学習する単元とおおよその時期

- ・現代を生きる自己の諸課題【10月】
- ・人間としての自覚と生き方【11～12月】
- ・現代社会と倫理【12～1月】
- ・国際社会に生きる日本人の自覚【1～2月】
- ・現代の諸課題と倫理【2～3月】

■授業の流れ、予習・復習を含めた学習方法

人間は「善く生きる」ためには、善い生き方とは何かを考える必要があります。その手がかりとして先哲（哲学者や宗教家）の思想を学びますが、大事なことはそれを単なる知識として覚えるのではなく、自分の生き方として主体的に考えることです。さらに人間は一人ではなく、共同体の一員として生きています。社会や他者とよりよく関わるために、コミュニケーションを交わし、合意を形成していくための対話も必要です。このプロセスを学ぶのが倫理の学習です。

■観点別評価について

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	A 学んだ知識を社会との関わりの中で、自己の人格形成に役立てることができる。	自らの人生観や価値観を適切に表現できると友に、他者との対話を通じて合意を形成していくことができる。	人間社会の抱える問題を広い視野で考え、さまざまな価値観を相対的に捉えて自分の生き方と結びつけて考察することができる。
	B 学んだ内容に関する資料や書籍を自ら探して、主体的に自己の問題として探求できる。	他者の考え方や価値観に耳を傾けて客観的に理解することができる。	学んだ内容を自らの生き方と結びつけて考えることができる
	C 上記が達成できていない	上記が達成できていない	上記が達成できていない
評価の場面	定期考査、課題の提出状況	定期考査、授業中の発言内容	授業中の参加態度 課題の提出状況

■領域ごとの授業時間数について（現代の国語、言語文化 のみ）

単元名								
話すこと・聞くこと								
書くこと								
読むこと								

※前頁の「■学習する単元とおおよその時期」とリンクさせてください

■領域ごとの授業時間数について（英語コミュニケーションⅠ のみ）

単元名								
聞く								
読む								
書く								
話す（やりとり）								
話す（発表する）								

※前頁の「■学習する単元とおおよその時期」とリンクさせてください

■自己評価について

授業評価と連動させた Google フォームで、実施します。

- ・生徒自身が3観点について、振り返る
- ・生徒自身の取り組み方について
- ・教員の授業について